

第七條 左項ニ該當スルモノハ平素最モ精密注意スルヲ要ス

貸座敷、旅人宿、船宿、待合茶屋、下宿屋、飲食店及雇人口入業者、古物商、質商、湯屋

人力車馬車營業及馭者、馬丁、轎子

裏長屋等ニ住居スル總テノ貧民

私塾學舎

諸集會所

第二項

無免許代理人

資産常職ナク又ハ常職アルモ其舉動恠シキモノ

營業停止中ノ者及被監人

惡漢ト指稱セラルルモノ

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノ

賭博ノ處分ヲ受ケ又ハ賭博ノ嫌疑アルモノ

賣淫及ヒ媒合容止ノ處分ヲ受ケ又ハ賣淫媒合容止ノ嫌疑アルモノ

戸口調査記載方心得

第一條 戸口調査簿ニハ本住ト寄留トヲ區別シ其住所ノ町名番地借家又ハ地主等ノ

譯及其一家人ノ族籍職業年齢ヲ記載スヘシ

第二條 同居寄留及ヒ雇人ハ戸主ノ末籍ニ記載シ朱ヲ以テ其肩書ヲナスヘシ

第三條 甲區ニ本籍アリテ乙區ニ寓居スルモノハ乙區ヲ以テ本籍ト見做スヘシ

第四條 官廳兵營神社寺院學校病院會社等ハ通常家屋ト區別シテ戸口簿ニ記載シ戸

口調査表ニハ各其本部欄内ニ登記シ合計ハ之ヲ除クヘシ

第五條 官廳内ニアル官宅ハ通常家屋ノ部ニ登記スヘシ

第六條 戸口調査心得第六條及ヒ左ノ各項ニ該當スルモノハ各其氏名ノ上ニ其種別

ヲ記載スヘシ

一 府町村會議員

一 不動産及ヒ動産アル者

一 名望アル者

第七條 擔當巡查ノ調製スル戸口調査表ハ第一號表分擔當者ハ第二號表署長ハ第三

號表ニ依ルヘシ

第八條 戸口調査表ノ統計ハ其月ノ現員ヲ以テスヘシ

第九條 第四號ノ點檢表ハ常ニ戸口調査簿上表紙ノ裏面ニ貼附シ其現員ハ本表欄内

ニ記入スヘシ

第十條 擔當巡查受持部内ノ略圖ヲ戸口簿ノ紙尾ニ貼附シ置クヘシ

●訓示第五號 明治二十九年一月二十八日

警察ニ於ケル戸口調査ノ要旨ハ緩急變通ノ便ヲ圖ルニ在リテハ戸籍調査ト其趣ヲ異

ニス然ルニ從來調査上發見セシ事故數ノ甚々寡ナキニ依リテハ唯簿冊上ノ整頓ノニ

偏シテ住民ノ舉動等ニ至リテハ注意周到ナリト云フヲ得ス依テ自今一層督勵シ以テ

各擔當巡查ニ注意事項ヲ指示シ荷モ著シキ犯罪者ノ潛匿及容易ナラサル舉動アルモ

ノヲ覺知セス他ヨリ發見セラルルカ如キ頓忘アルモノハ其責任ヲ明ニシ相當處分セ

◎戸口調査心得外二件

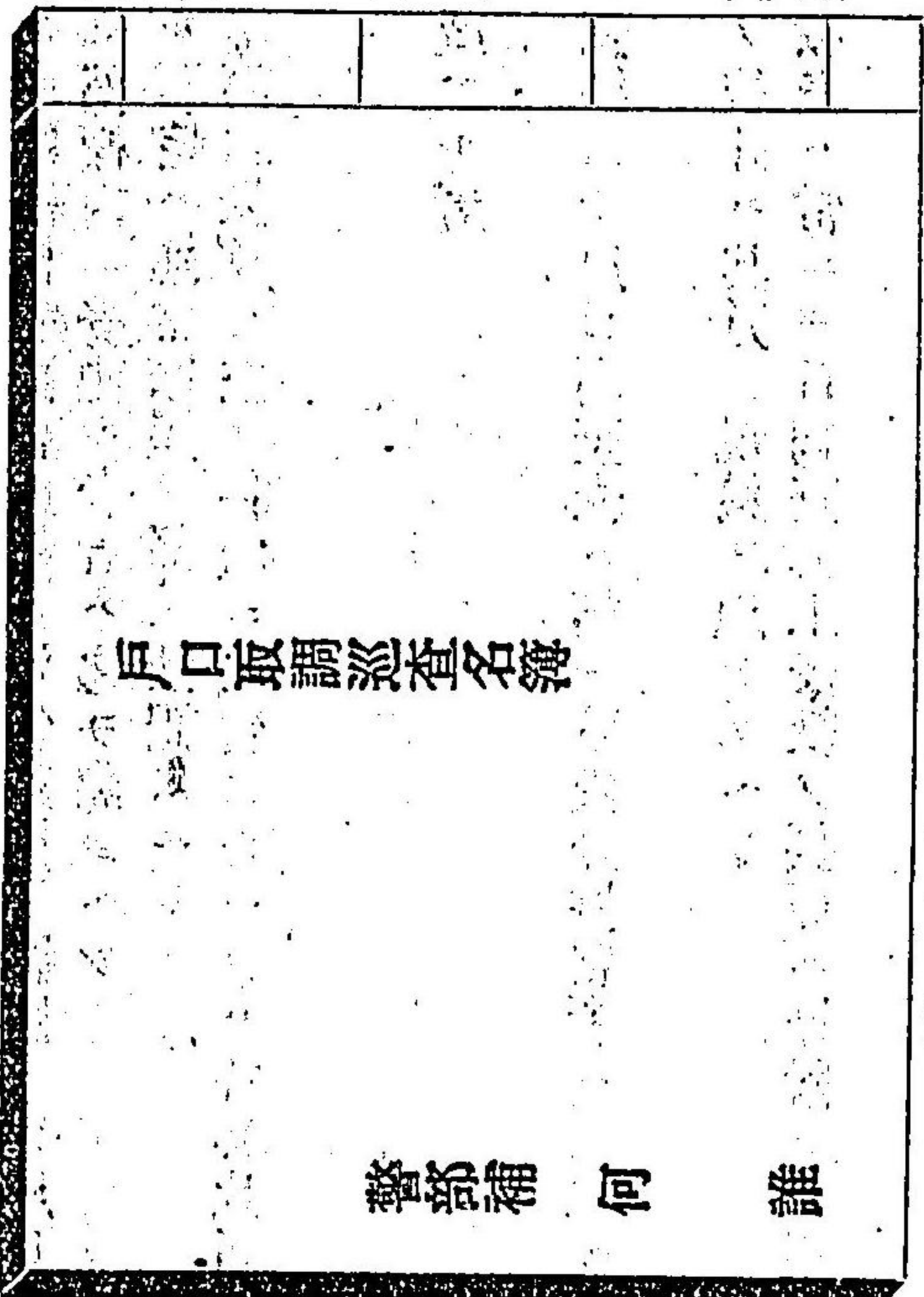
ラルヘシ

◎月口調査心得外二件

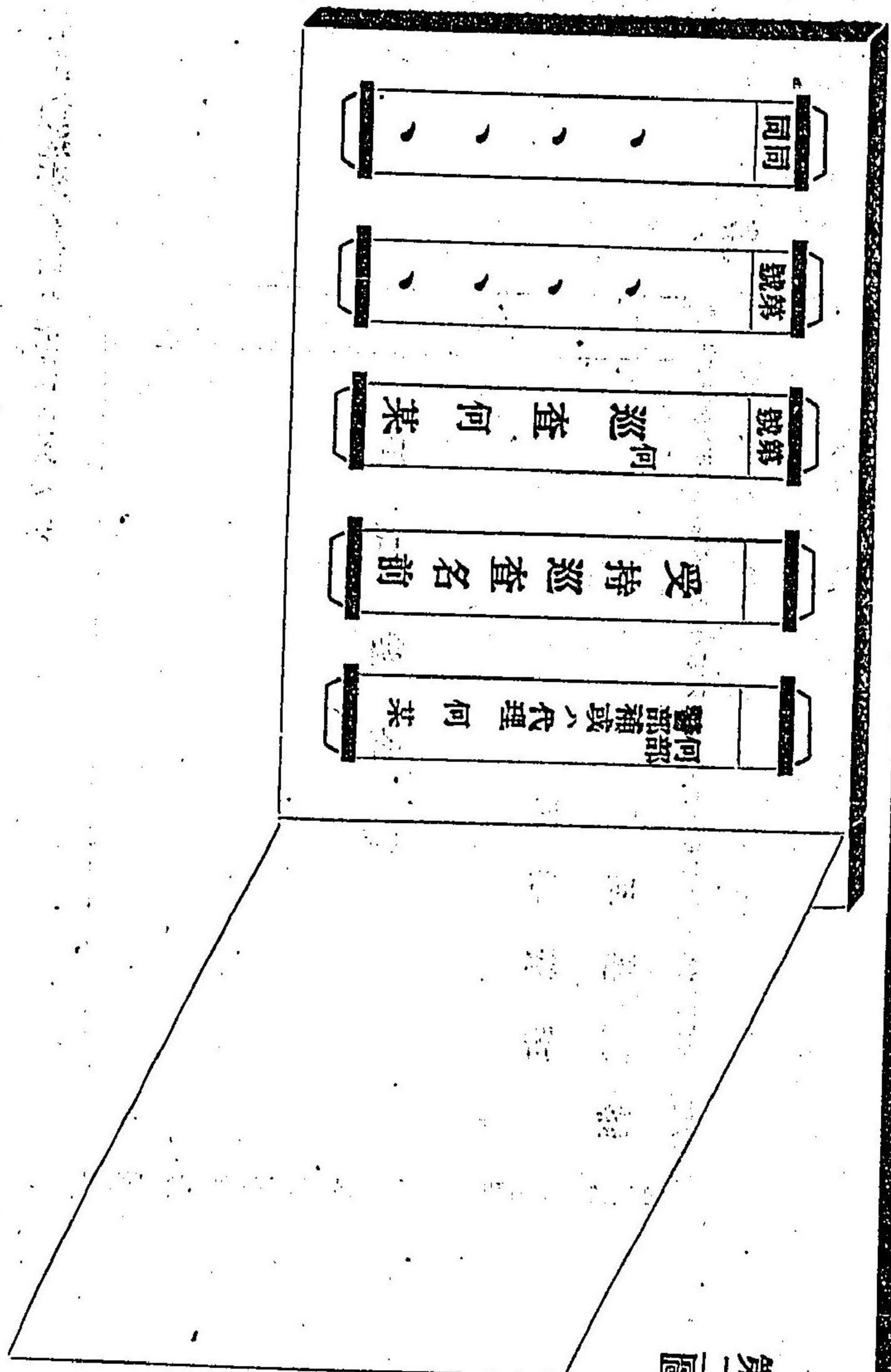
下五五〇

●訓示第十二號 明治二十五年六月六日
 孝子節婦義僕等ノ義ニ付テハ夙ニ褒章條例ノ規定スルトコロニシテ戸口調査項目中
 ニモ掲記之レアリ平素充分ノ視察ハ行届キ居ルヘシト雖トモ所謂令聞門ヲ出テス其
 德行卓絶ニシテ尙ホ未タ世ニ表彰セラレサルモノ之レナキヲ保シ難シ付テハ將來一
 層注意ヲ加ヘ右等奇特ノ實行アルモノヲ覺知シタルトキハ精細其行蹟ヲ調査シ速ニ
 具狀セラルヘシ

第一圖



第二圖



◎月口調査心得外二件

下五五二

◎戶口調査心得外二件

下五五二

警部補巡查名前ハ指札ニスヘシ

| | |
|-------|--|
| 戸口調査簿 | |
| 何警察署 | |
| 何部 | |
| 何誰 | |

第三圖

| | | | | | |
|---------------|----|---|---|-------|----|
| 何區(郡)何町(村)何番地 | 何號 | 妻 | 誰 | 何職業 | 何誰 |
| 何誰 | 何誰 | 妻 | 誰 | 長男(女) | 誰 |
| 何誰 | 何誰 | 妻 | 誰 | 何誰 | 誰 |
| 何誰 | 何誰 | 妻 | 誰 | 何誰 | 誰 |
| 何誰 | 何誰 | 妻 | 誰 | 何誰 | 誰 |

第四圖

◎戶口調査心得外二件

下五五三

◎戶口調査心得外二件
記載雛形

(本住) 借地(地主)借家
第何號 何職業 誰
何年何月何日生

(寄留)
第何號 何府縣士族(平民)
本籍何府縣何官廳何等出仕(雇)
何區何村何 何ノ誰
番地

何府縣何區何村
何番地士族平民 妻 誰
何誰娘(姉)(妹)

、
、
、
、
妻 誰

何府縣何區何村 雇男(女)
何番地士族平民(何職業)
(弟)(娘)(姉)(妹)
何年何月何日雇人

(同居)
何職業 何ノ誰

各名 前ハ 圖ノ 如ク 指札 ニス ヲシ

下五五四

| 明 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 年治 | 點檢日 | 點檢日 | 現員 | 出生 | 死亡 | 監視人 | 入獄人 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|-------------|------------------|----|----|----|-----|-----|---|---|---|--|--|
| 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 外 檢 印 | 分 擔 者 印 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

◎戶口調査心得外二件

下五五五

| 戸数 | 十一月 | | 十二月 | | 合計 | 乙 | | 甲 | |
|----|-----|---|-----|---|----|---|---|---|---|
| | 月 | 日 | 月 | 日 | | 女 | 男 | 女 | 男 |
| 一 | 月 | | 月 | | | | | | |
| 二 | 月 | | 月 | | | | | | |
| 三 | 月 | | 月 | | | | | | |
| 四 | 月 | | 月 | | | | | | |
| 五 | 月 | | 月 | | | | | | |
| 六 | 月 | | 月 | | | | | | |
| 七 | 月 | | 月 | | | | | | |
| 八 | 月 | | 月 | | | | | | |
| 九 | 月 | | 月 | | | | | | |
| 十 | 月 | | 月 | | | | | | |
| 十一 | 月 | | 月 | | | | | | |
| 十二 | 月 | | 月 | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | |

戸口調査表第一號ヨリ第三號マテ略ス

○長屋建築規則

明治十九年五月
甲第七五號

- 第一條 二戸以上二棟トナシ新設スルモノ及舊建物ヲ區畫シ數戸ニ改造スルモノ或ハ舊建物ニ接續シテ二戸以上ヲ増設スルモノニシテ表長屋ニ在テハ二戸ノ建坪八坪未滿其他ハ坪數ヲ問ハス總テ此規則ヲ遵守スヘシ(十九年府令第四十六號)但一戸建
- 第二條 長屋ヲ新設改造又ハ増設セシトスルトキハ別紙第一號書式ニ準據シ繪圖面
- 第三條 長屋落成ノトキ別紙第二號書式ニ準據シ所轄警察官署ノ検査ヲ乞ヒ認可ヲ受クルニテハ別紙第一號書式ニ準據シ所轄警察官署ノ検査ヲ乞ヒ認可ヲ
- 第四條 一棟ノ戸數ハ五戸以内ニシテ他ノ建家トシテ距離ハ三尺以上タルヘシ(十九年府令第二十四號ヲ以テ)
- 第五條 建家ノ敷地ハ港石ノ上端ヨリ高サ一吋五歩以上タルヘシ但敷地内ニ塵芥等不潔物ヲ埋埋スベカラズ(十九年府令第二十四號)
- 第六條 窓ハ一戸ノ四方中ニ於テ少ナクモ一方ニ開設シ其廣サハ建家坪面積ノ五分
- 第七條 通路ノ廣サハ六尺以上タルヘシ
- 第八條 裏長屋ハ表家ヲ通過セス別ニ二個所以上ノ路次口ヲ設クヘシ(十九年府令第二十四號ヲ以テ)但五戸以内ノ長家ニ限リ相當ノ非帶口ヲ設クルモノハ一個所トナスコトヲ得

○長屋建築規則

◎長屋建築規則

下五五八

- 第九條 廁圍ハ少ナクモ二戸ニ一个所ヲ設クヘシ
- 第十條 廁圍及芥溜ヲ新設スルモノハ其近傍自他ノ井戸ヲ距ルコト一丈二尺以上タルヘシ(同上府令ヲ以テ左)但井戸ヲ新設スルモノモ廁圍芥溜及大下水溝渠ヲ距ルコト此例ニ據ルヘシ
- 第十一條 廁圍ニ用ユル糞壺ハ陶器(素燒ト唱フル)ニシテ口ノ徑二尺深サ二尺五寸以下ノモノヲ用ヒ其周圍ハ厚サ二寸以上ノ叩キ漆喰ニスヘシ
- 第十二條 床下ノ仕切壁ハ一方毎ニ其面積五分ノ一以上ノ空氣窓ヲ設クヘシ
- 第十三條 建家ノ敷地土臺石ノ上端ヨリ軒高サ九尺以上上床板迄ノ高サ一尺五寸以上タルヘシ(二十年府令第九十三號ヲ以テ本條中若干字挿入)
- 第十四條 長屋ニ附屬スル下水小溝ヲ設クヘシ其幅ハ六寸以上ニシテ自他ノ排水ニ害ホク大下水溝渠ニ放流スヘキ構造ヲホシ其勾配ハ百分一ノ(則一間ニ付六分)以上タルヘシ但下水小溝ノ兩側及底面ハ石又ハ瓦ヲ以テ構造シ其間隙ニ煉漆喰ヲ施スヘシ
- 第十五條 願書ハ總テ正副二通ヲ製シ差出スヘシ
- 第十六條 長屋表ノ軒下ヘ廁圍及便器ヲ設置スヘカラス(十九年府令第二十四號ヲ以テ本條及以下二條ヲ追加ス)
- 第十七條 長屋居住者居住ノ現狀極メテ不潔ニシテ公衆ノ衛生ニ害アリト認ムルトキハ立退ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十八條 前條ニ依リ立退ヲ命セラレタル者ニハ所轄警察署ノ認可ヲ受クルニ非ラザレバ長屋ヲ貸與スヘカラス
- 第十九條 此規則第二條第三條第十六條及第十八條ニ違背スルモノハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處セラルヘシ(同上府令ヲ以テ第十六條ヲ追加ス)但居住人事實ヲ隱蔽シ因テ第十

八條ニ違背シタル場合ハ居住人其罪ニ處ス

第二十條 此規則ハ大阪堺奈良ノ市街及該市街ト人家接續ノ町村ニ於テ施行スルモノトス(七條ヲ本條ニ據下ク)

- 一 現在ノ長屋ニシテ衛生上有害者クハ危險ト認ムルモノハ日數ヲ限り改造ヲ命シ又ハ居住ヲ禁スルコトアルヘシ
- 一 現在ノ廁圍芥溜ニシテ本則第十條ニ觸ルルモノハ本年八月中ニ其廁圍芥溜又ハ井戸ノ位置ヲ移轉スヘシ
- 一 前二項ニ違フ者亦刑法第四百二十六條ノ刑ニ處セラルヘシ
- 一 本則第十六條第十七條及第十八條ハ現在ノ長屋ニモ適用ス

(第一號書式)

長屋新設(増設)(改造)願

今般何區何町何番地ニ於テ長屋新設(増設)(改造)致度ニ付御許可被成下度別紙繪圖面相添此段奉願候也

何區何町何番地住或寄留
 何府(寄留人ナシハ原籍國郡區)
 何縣(町村名番地ヲ愛ニ記ス)
 族籍職業

年月日 大阪府何警察署御中

何 誰 印

◎長屋建築規則

下五五九

◎長屋建築事務取扱手續

下五六〇

(第二號書式)

備考
一 繪圖面ハ東西南北ノ方位ヲ示シ敷地及建家共四方ノ間敷ヲ掲ケ且一棟及一戸ノ區別ヲナシ尙一戸ノ中室數ヲ區畫シ其疊數ヲモ記載スヘシ

長屋新設(増設)(改造)検査願

何年何月何日御許可ヲ得候長屋(新設)(増設)(改造)落成致候ニ付御検査ノ上御認可被成下度此段奉願候也

何郡何町何番地住或寄留

何府(寄留人ナレハ原籍國郡區)

何縣(町村名番地ヲ愛ニ記ス)

何族籍職業

年月日
大阪府何警察署御中

誰

◎長屋建築事務取扱手續

明治十九年八月
本達乙第一六號

區部曾根崎天
王寺掛奈良 警察署

第一項 規則第二條ニ據リ長屋新設改造又ハ増設ヲ願出シタルトキハ圖面ヲ調査シ其構造第四條以下ノ制規ニ適當ト認ムル者ハ直ニ許可ノ指令ヲ爲シ其牴觸スル分ハ訂正セシメタル後ヲ指令スヘシ
第二項 規則第三條ニ據リ長屋ハ落成検査ヲ願出タルトキハ實地ヲ検査シ其構造許

可ノ圖面ニ符合シ且第四條以下ノ制規ニ適當スル者ハ直ニ認可ノ指令ヲ爲シ其牴觸スル分ハ一時使用ヲ差止再ヒ修築スルヲ俟テ認可スヘシ但實地検査員ハ内勤警部補以上ヲ以テ之ニ充テ其使用差止中ハ緊要ノ部分ハ封印ヲ施シ修築著手ノ際之ヲ撤却スヘシ
第三項 附則第一項ニ據リ長屋ノ改造ヲ命シ又ハ居住ヲ禁スルノ方法ハ別ニ規定スル所ニ據ル
第四項 附則第二項ニ據リ厠圍芥溜ノ位置ヲ移轉スルノ順序ハ專ラ實地ノ模様ニ依リ孰レカ便宜ノ一方ヲ移スハ勿論ナリト雖トモ一面井戸取締規則ヲ參酌シ可成厠圍又ハ芥溜ヲ移シ井戸ノ位置ヲ動カササル様注意スヘシ
第五項 規則違犯ノ者處分方ニ付テハ一般ノ成規ニ據ルハ勿論ナリト雖モ速ニ其行為ヲ改メ正當ノ順序ヲ履行スルカ如キ其他情狀輕キ者ハ可成説諭ニ止ムルヲ要ス
第六項 毎三分長屋建築明細表ヲ製シ翌月(七月四月)十日限本部ニ進達スヘシ
第七項 前各項ニ定ムル外事ノ異例ニ涉ルモノハ其時時事由ヲ具シテ本部ニ稟議スヘシ

長屋建築明細表雛形

| | | | |
|-----|----|----------|--------|
| 至明治 | 年月 | 長屋建築明細表 | 某警察署 |
| 種 | 類 | 許可又ハ命令ノ數 | 落成認可ノ數 |
| 新設 | 箇所 | 戸數 | 箇所 |
| | | | 戸數 |

◎長屋建築事務取扱手續

下五六一

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 改 | 改 | 增 | 改 | 居 | 井 | 同 | 同 | 同 |
| 造 | 造 | 設 | 造 | 住 | 新 | 廢 | 廢 | 廢 |
| 止 | 止 | 命 | 命 | 禁 | 設 | 止 | 止 | 止 |
| 令 | 令 | 令 | 令 | 止 | 止 | 新 | 新 | 新 |
| 設 | 設 | 設 | 設 | 設 | 設 | 設 | 設 | 設 |
| 止 | 止 | 止 | 止 | 止 | 止 | 止 | 止 | 止 |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 廢 | 廢 | 廢 | 廢 | 廢 | 廢 | 廢 | 廢 | 廢 |
| 止 | 止 | 止 | 止 | 止 | 止 | 止 | 止 | 止 |

◎長屋建築規則ニ關スル達三件

區部會根 崎天王寺 警察署

●本乙第五十九號 明治十九年七月十三日

長屋建築規則第二項ニ依リ現在ノ長屋ニシテ改造若クハ居住ヲ禁スヘキ場處ハ取扱委員ニ於テ主任區(郡)書記ト俱ニ實地取調ヲ爲シ改造又ハ居住禁止ヲ必要トスルノ理由ヲ詳記シ區(郡)長署長連署ヲ以テ長官ニ具申スヘシ此段相達候也

●本乙第六十號 明治十九年七月十六日

長屋建築規則附則第一項衛生上有害ト認定スヘキ綱領内規左ノ通相定メ候條此段相達候也

衛生上有害ト見認ル内規大綱目

- 一 大小下水等ノ上ニ建造セシモノニシテ溝渠ノ浚深ヲ妨クルモノ
- 一 土藏又ハ納家等ヲ以テ住居ニ充テ構造向衛生上甚敷有害ト認ムルモノ
- 一 前項ハ其綱領ヲ示スモノナレハ其他之ニ類スル家屋等ニシテ衛生上甚敷有害ト見認ムルモノハ本年本乙第五十九號達ニ依リ長官ニ具申スヘシ
- 本達乙第五十九號 明治十九年十一月二十四日
- 長屋建築規則第四條ノ距離ヲ取ラシムル義ニ付テハ往々區々ニ亘ル義モ有之候處自今左ノ通心得取扱フヘシ
- 一 第四條ニ他ノ建家トアルハ規則ニ據ルヘキ長屋ヲ指シタルモノトス
- 一 隣接ノ長屋ト其地主ヲ異ニスル場合新設ノモノハ地境ヨリ成規ノ距離一半ヲ取レハ足ルモノトス

◎漁業取締規則

明治三十五年十一月十日 大阪府令第九十一號

漁業法及漁業法施行規則ニ依リ漁業取締規則左ノ通相定ム

- 第一條 左ノ各號ニ該當スル漁業ヲ爲サントスル者ハ大阪府知事ノ許可ヲ受クヘシ
 - 一 縋網漁業 (大、小縋網卷セ網棒振網ヲ含ム)
 - 二 打瀬網漁業

◎漁業取締規則

- 三 手繰網漁業
 - 四 五智網漁業
 - 五 桁網漁業
 - 六 罾刺網漁業 (カ、ラセ網ヲ含ム)
 - 七 鱒刺網漁業 (ガ、ラサエ立網ヲ含ム)
 - 八 蛸壺網漁業
 - 九 繼笠漁業 (方言繼モノドリ)
- 第二條 漁業法施行規則第五十六條及前條ノ漁業許可願書ニハ左記ノ事項ヲ記載ス
- 一 漁業ノ名稱
 - 二 漁業ノ場所
 - 三 漁獲物ノ種類
 - 四 漁業ノ時期
 - 五 許可期間
- 第三條 本規則ニ依ル漁業許可ノ期間ハ五ヶ年以内トス
- 第四條 水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ漁業ノ許可ヲ制限シ又ハ停止シ若クハ取消スユトアルヘシ
- 第五條 鱈兒^{イナゴ}生^{イナゴ}ハ二月一日ヨリ六月三十日マテ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

- 前項ノ魚類ヲ養殖、學術研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ捕獲セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シテ大阪府知事ノ許可ヲ受クヘシ但捕獲シタル魚類ヲ販賣スルコトヲ得ス
- 一 捕獲ノ目的
 - 二 捕獲ノ場所
 - 三 捕獲ノ時期
 - 四 捕獲ノ方法
- 第六條 漁業者ニアラサル者ハ左ニ掲クル以外ノ漁具ヲ用非魚介ヲ採捕スルコトヲ得ス
- 一 竿釣及手釣
 - 二 步行投網^{カサネ}
 - 三 步行抄網^{カサネ} (前抄網又手網攪網ヲ含ム)
 - 四 干潟採介
- 第七條 本規則ニ依リ漁業ヲ許可シタルトキハ別記鑑札ヲ下付ス
- 第八條 漁業ノ許可ヲ受ケタル者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帯スヘシ
- 第九條 廢業ヲ爲シタルトキハ廢業ノ日ヨリ三十日以内ニ鑑札ヲ添付シ大阪府知事ニ届出ツヘシ
- 第十條 鑑札ヲ亡失毀損シ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ書換ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ具シ大阪府知事ニ再下付ヲ申請スヘシ

◎漁業取締規則

下五六六

第十一條 鑑札ハ之ヲ讓渡シ又ハ貸付スルコトヲ得ス

第十二條 漁場ノ標識ヲ建設セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ大阪府知事ニ届出テ檢

査ヲ受クヘシ

一 標識ノ位置

二 標識ノ雛形

三 標識ノ個數

第十三條 漁業ノ標識ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 漁業權ノ種別

二 漁場ノ區域

三 漁業權者ノ氏名又ハ名稱

第十四條 漁業法及同法附帶ノ命令ニ依リ提出スヘキ書類ハ其住所地ノ市役所又ハ

町村役場及郡役所ヲ經由スヘシ

但本府下ニ住所ヲ有セサル者ハ直ニ知事ニ提出スヘシ

第十五條 第一條第五條第一項及第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ

處シ漁具及漁獲物ヲ沒收ス

第十六條 第五條第二項但書ニ違背シテ魚類ヲ販賣シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處

ス

第十七條 第八條第九條及第十一條ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

第十八條 本規則ハ明治三十六年一月一日ヨリ施行ス

許可漁業鑑札雛形 (木製) 長三寸 厚二分

表 面

第何號

住所 氏 名

○ 何種漁業許可鑑札

許可期間 自何年何月何日 至何年何月何日

巾二寸

裏 面

年月日

○ 大阪府

印烙

◎漁業取締規則

下五六七

◎講會取締規則 明治三十年九月 府令第一五三號

- 第一條 公衆ヲ會シ頼母子講無盡講又ハ之ニ類似ノ講會ヲ組織シ舉行セントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ
- 一 講會ノ目的方法終了ニ至ル迄ノ掛込金拂渡金掛戻金等ノ收支計算
 - 一 講主及講員ノ住所氏名
 - 一 開講ノ日時場所及ヒ期間
 - 一 講員ノ記名調印シタル規約
 - 一 講主若クハ管理ニ報酬又ハ手数料ヲ給スルトキハ其額
- 第二條 本則發布以前ヨリ組織舉行ニ係ル講會ハ來ル十二月三十一日迄ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第三條 一旦認可ヲ與ヘタルモノト雖モ其後ノ行跡ニ於テ風俗又ハ秩序ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第四條 本則第一條第二條ニ背キタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

◎講會取締規則取扱手續 明治三十年九月 府令第一五三號

近來各種ノ講會諸所ニ起リ名ヲ社寺佛閣名所古跡ノ維持修繕又ハ紀念碑塔ノ建設ニ藉リ其他種種ノ名義ヲ設ケ公衆ヲ結聚シ私利ヲ營ミ講員ヲ瞞著シテ虛偽ノ講株ヲ作リ當籤ヲ私スルアリ又奸黠ノ徒講主若クハ管理人ト爲リ之ニ乘シテ種種ノ惡計ヲ施スモノアリ又其方法ヲ視ルニ殆ント富ニ近ク僥倖ヲ希圖シ風俗ヲ害スルコト鮮カラズ今般府令ヲ以テ講會取締規則ヲ發布セラレタルハ必竟是等ノ弊害ヲ豫防セントス

ルニ在レハ宜シク警察上嚴密ナル視察ヲ加ヘ充分ノ取締ヲ爲ササルヘカラス左ニ取扱手續相定メ候條右旨趣ヲ體シ之ニ據リ取扱ハルヘシ

- 第一條 講會舉行ノ認可ヲ願出タルモノアルトキハ規則第二條ノ各項ニ就キ取調ヲ爲シ不都合ナシト認メタルトキハ直ニ認可シ其認可スヘカラスト認ムルトキハ願書ニ意見ヲ付シ稟議スヘシ
- 第二條 左ノ如キ場合ニ於テハ認可ヲ與フヘカラス
- 一 講會ノ目的安寧秩序ヲ害スルトキ
 - 一 講主又ハ發起人管理人等ノ營利事業ト認メラルルトキ
 - 一 講會ノ方法ニ於テ或ルモノハ當籤シテ利益ヲ得ヘキモ或ルモノハ毫モ利益ヲ得サルモノ又ハ或ルモノノ受クヘキ利益ニ著シキ差等アルトキ
 - 一 講主若クハ管理者等ニ過分ナル報酬又ハ手数料ヲ給與セントスルトキ
 - 一 當籤者ノ掛戻金ニ對シ擔保ヲ供スルノ規約ナルトキ
 - 一 期間十年ヲ超ユルトキ
- 第三條 規則第二條ニ依リ願出タル既設ノ講會ニ付テモ亦前二條ニ準シ取扱フヘシ但前條第五號ノ擔保及第六號ノ期間ハ既設ノ講會ニ適用セス(三十年警達第三十四號ヲ以テ但書追加)
- 第四條 警察署長又ハ分署長ハ其指定ノ巡查ヲシテ時時講會ノ情況ヲ視察セシムヘシ
- 第五條 規則第三條ニ依リ已ニ與ヘタル認可ヲ取消サントスル時ハ其理由ヲ具シテ稟議スヘシ

◎迷子取扱方二件

地第四百七十七號 明治八年十二月十二日

區 戸 長 下五六九

◎迷子取扱方二件

◎幼年者游泳取締方二件

下五七〇

子弟ヲ見失ヒ迷子トナストキハ其失主ヨリ直ニ最寄警察署へ區名住所姓名其外衣類等巨細口上ヲ以テ届出可申亦迷子ヲ見當ル時ハ其子ヲ携へ最寄會議所へ可曳渡會議所ニ於テハ其子ノ人相衣類等見認最寄警察署へ可申出此旨各區内へ無洩可相達候事
●本乙第三十七號 明治十六年四月二十六日 市中各署
迷子ニシテ自家ノ町名番地等ハ詳知スルモ歸家道筋ヲ失念シ市街ニ彷徨スル者有之節ハ自今巡回巡查ニ於テ其道筋ヲ聞取り派出所傳遞ヲ以テ該家へ送り届ケ候様可致此段及通達候也

◎幼年者游泳取締方二件

●諭第五號 明治十七年七月十四日

夏季炎熱ノ候ニ方リ毎年無智幼年ノ徒前後ノ思慮ナク游泳ニ耽リ爲メニ溺死スル者不尠ヲ以テ是迄數敷告諭警戒セシ次第モ有之候處本年モ仍ホ炎熱ノ候ニ際シ幼稚者ノ己ニ溺死セシ者往往有之趣相聞候右ハ畢竟父兄ノ怠リニ出ルモノニ付自今必ス注意シ幼年ノ子弟ヲシテ漫リニ游泳セサル様篤ク戒諭スヘシ
●本甲第八十九號 明治十七年七月十八日
幼年ノ輩游泳ニ耽リ溺死候者不少趣キ相聞候ヨリ今般諭第五號ヲ以テ取締方其父兄へ告諭相成候處右溺死スルカ如キハ職トシテ父兄ノ不注意ヨリ生スル儀ニハ候得共亦行政警察ノ周到ヲラサルニ原因スル儀ニモ可有之候條尙巡回巡查ニ於テモ精密注意シ其保護者ヲシテ游泳スルモノヲ見認候節ハ説諭シ速カニ上陸候様取計ハシム可シ此段及通達候也

司 法

◎大阪府違警罪目

明治十六年九月 甲第六一號

當府違警罪別冊ノ通改正シ本年九月十五日ヨリ施行ス

第一條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓

九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 有病又ハ病死ノ禽獸ナルコトヲ知テ食料ノタメ販賣シタル者
- 二 河豚ヲ食料ノタメ販賣シタル者
- 三 火葬場ニ在セサル地ニ於テ屍體ヲ燒キタルモノ
- 四 通貨ニ紛ラハシキ物品ヲ製造シ又ハ賣買授受シタルモノ(二十七年府令第二十號ヲ以テ本項改正)
- 五 諸興行場ニ於テ遊技ニ託シ賭博ニ類スル所業ヲナシタル者
- 六 富ニ類スル所業ヲ爲シ又ハ之ヲ補助シタル者
- 七 鬪鷄ヲナシタル者
- 八 強テ物品ヲ賣買シ若クハ賣買セントシ人ニ迷惑ヲ掛ケタル者(十七年甲第二十號ヲ以テ本項中七字追加)
- 九 神官僧侶ニアラスシテ他人ノタメニ加持祈禱等ヲナシ又ハ守札ノ類ヲ配授シタル者(十七年甲第二十號本項中六字ヲ追加)
- 十 人ニ暴行ヲ加ヘタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
- 十一 乗組人ナキ船舶内ニ潜伏シタル者
- 十二 社堂修祭典法會若クハ諸興行等ノ爲メ強テ金品ヲ出サシメ又ハ種種ノ名義ヲ以テ合力ヲ乞ヒタル者

◎大阪府違警罪目

下五七一

- 十三 瘋癲人取締規則ニ違背シタル者(十九年甲第二十四號ヲ以テ本項追加)
- 第二條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 劇藥若クハ毒流シ或ハアケ出シト唱フル方法ヲ以テ魚類ヲ捕リタル者
- 二 他人ノ門戸内ニ於テ濫リニ紙屑襪襪木片ノ類ヲ拾ヒ取りタル者
- 三 濫リニ他人ノ山林或ハ所有地ニ立入落葉ノ類ヲ拾ヒ又ハ土砂芝草等ヲ掘取リタル者
- 四 官許ヲ得スシテ民有社寺境内ノ竹木ヲ伐採シタル者
- 五 他人ノ營業又ハ公益ニ關スル作業ヲ妨ケ若クハ故障ヲナシタル者(十八年甲第二十號ヲ以テ刪除)
- 六 水火其他ノ變ニ際シ制止ヲ肯ンセス防禦ノ妨ケヲナシタル者
- 七 神佛祭禮又ハ祝儀等ノ節妄リニ家屋若クハ人ニ妨害シタル者
- 八 制止ヲ肯ンセスシテ喧噪シ又ハ人ヲ教唆シテ喧噪セシメタル者
- 九 官許ヲ得スシテ海上衝突豫防規則ノ碇泊燈漁船燈紅燈黑球ヲ製造販賣シ及ヒ檣燈舷燈ノ修繕販賣ヲ爲シタル者(三十年府令第百八十八號ヲ以テ刪除)
- 十 官許ヲ得スシテ私邸外ニ神祠佛堂及墓地外ニ佛像石塔ノ類ヲ建設シタルモノ(十七年甲第八十一號ヲ以テ本項刪除)
- 十一 官署禁制ノ榜示ヲ犯シタルモノ
- 十二 池沼溝渠官公有地又ハ他人ノ所有地若クハ船舶等ニ禽獸ノ死屍瓦礫土芥竹木石炭ノ燒殻等ヲ投棄シ又ハ公設ノ汚泥箱及塵芥箱中ニ禽獸ノ死屍又ハ石炭ノ燒殻等ヲ投棄シタルモノ(二十九年府令第二十號ヲ以テ本項改正)
- 十三 水力ヲ以テ使用スル器械ノ運轉ヲ妨害シタルモノ
- 十四 官許ヲ得スシテ私邸外ニ神祠佛堂及墓地外ニ佛像石塔ノ類ヲ建設シタルモノ(十七年甲第八十一號ヲ以テ本項刪除)
- 十五 神佛ニ託シ妖怪異説ヲ唱へ人ヲ眩惑セシムル所業ヲナシタルモノ
- 十六 官署禁制ノ榜示ヲ犯シタルモノ
- 十七 人ニ流動物又ハ土芥瓦礫ノ類ヲ抛澆シタル者
- 十八 新聞紙又ハ雜誌繪草紙ノ類ヲ讀賣シタル者
- 十九 官許ヲ得スシテ烟火ヲ打揚ケタル者(本項ハ人力車及馬車取締規則ニ違背シタルモノ)
- 二十 官許ヲ得スシテ烟火ヲ打揚ケタル者(本項ハ人力車及馬車取締規則ニ違背シタルモノ)
- 二十一 水路取締規則ニ違背シタル者(十八年甲第十八號ヲ以テ本項追加)
- 二十二 乘船又ハ宿泊ヲ勸ムル客引ヲナシ又ハ其手段トシテ他人ノ携帶品ヲ預リタルモノ(二十九年府令第三十號)
- 二十三 水路取締規則ニ違背シタル者(十八年甲第十八號ヲ以テ本項追加)
- 二十四 乘船又ハ宿泊ヲ勸ムル客引ヲナシ又ハ其手段トシテ他人ノ携帶品ヲ預リタルモノ(二十九年府令第三十號)
- 二十五 水路取締規則ニ違背シタル者(十八年甲第十八號ヲ以テ本項追加)
- 二十六 水路取締規則ニ違背シタル者(十八年甲第十八號ヲ以テ本項追加)
- 二十七 水路取締規則ニ違背シタル者(十八年甲第十八號ヲ以テ本項追加)

- 十八 堤防取締規則ニ違背シタルモノ(十八年甲第百二十號ヲ以テ追加)
 - 十九 大阪市水道公設共用栓其他水道ニ屬スル一切ノ用具ヲ猥リニ使用シ又ハ玩弄シタル者(二十八府令第五十號ヲ以テ本項追加)
 - 二十 大阪市水道公設共用栓ノ水ヲ濫リニ使用シ又ハ周圍ニ於テ物品ヲ洗濯シ若クハ不潔ノ所爲ヲナシタル者(同上)
- 第四條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス
- 一 官許ヲ得スシテ道路橋梁渡船ノ通行錢ヲ取リタル者
 - 二 官許ヲ得スシテ淀川流域ニ係ル諸山ニ於テ土石草根類ヲ掘取又ハ竹木ヲ伐採シタル者
 - 三 寄席取締規則ニ違背シタル者(寄席ノ下又ハ遊覽所トアルモ二十一年府令第七十六號ヲ以テ規則改正ニ依リ消滅ス)
 - 四 遊技場營業取締規則ニ違背シタル者
 - 五 官許ヲ得スシテ神佛ヲ開帳シ人ヲ群集セシメタル者
 - 六 官許ヲ得スシテ死屍ヲ改葬シタル者
 - 七 止宿人乗船人其屬籍身分氏名職業ヲ詐稱シタル者
 - 八 山林田野又ハ空屋等ニ集會シ官吏ノ退散ヲ命スルニ肯ンセサル者
 - 九 正當ノ事由ナクシテ本府官署ノ呼出ニ應セサル者
 - 十 路上又ハ群集ノ場所ニ於テ故ナク劔刀ヲ挺キ又ハ人ノ驚愕スヘキ所業ヲナシタル者
 - 十一 劇場其他ノ場所ニ於テ制止ヲ背ンセス言語動作ヲ以テ聽衆又ハ觀客ノ妨害ヲナシタル者

- チナシタル者
 - 十二 牛馬ヲ繫クコトヲ忽ニシ他人ノ田圃又ハ物品ヲ毀損シタル者
 - 十三 官林取締及ヒ下草芟採規則ニ違背シタル者(十八年甲第三十九號ヲ以テ本項中分註ヲ削除ス)
 - 十四 官林取締規則ニ違背シタル者(二十八府令第六號ヲ以テ削除ス)
 - 十五 官林取締規則ニ違背シタル者(二十八府令第六號ヲ以テ削除ス)
 - 十六 出火ノ際用水ノ供求ニ應セス又ハ井戸釣瓶ヲ解放シタル者(本項ハ街路取締規則違背ニ係ル件ニシテ該規則ノ改正ニ依リ消滅ス)
 - 十七 出火ノ際用水ノ供求ニ應セス又ハ井戸釣瓶ヲ解放シタル者(本項ハ街路取締規則違背ニ係ル件ニシテ該規則ノ改正ニ依リ消滅ス)
 - 十八 出火ノ際用水ノ供求ニ應セス又ハ井戸釣瓶ヲ解放シタル者(本項ハ街路取締規則違背ニ係ル件ニシテ該規則ノ改正ニ依リ消滅ス)
- 第五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 濫リニ官署ノ徽章アル標旗提燈及ヒ其他ノ物品ヲ用ヒタル者
 - 二 無届ニテ盆踊リ川施餓鬼ノ類ヲナシタル者
 - 三 免許ヲ得スシテ托鉢シタル者
 - 四 路上ニ於テ禽獸ノ皮ヲ剥キ又ハ肉ヲ屠リタル者
 - 五 目標類ニ漫リニ牛馬ヲ繫キタル者
 - 六 用惡水ノ流通ヲ妨ケタル者
 - 七 妄ニ他人ノ田圃ニ諸車ヲ輓キ入レタル者
 - 八 牧場外ニ濫リニ牛馬ヲ放飼シタル者
 - 九 他人ノ田圃池沼ニ濫リニ鴛ヲ放飼スル者(二十六年府令第九十號ヲ以テ本項追加)
 - 十 市街及ヒ店先キニ於テ袒褻裸體シ又ハ腹部若クハ臀股ヲ露シタル者(十七年甲第中追加)

◎囚人及刑事被告人押送取扱規程

下五七六

- 十一 市街ニ於テ便所外ニ大小便ヲナシ又ハ店先ヨリ幼穢ニ爲サシメタル者
- 十二 制止ヲ肯ンセス異様ノ粉粧ヲナシ又ハ醜體ヲ露シタル者
- 十三 行人ニ對シ又ハ人家若クハ船舶ニ立寄り漫リニ食品ヲ乞ヒタル者(十七年甲第
テ本項中若クハ船
舶ノ五字ヲ追加ス)
- 十四 制止ヲ肯ンセス夜十二時過キ歌舞音曲ヲナシタル者
- 十五 古墳石棺ノ類ヲ發掘シ届出テサル者
- 十六 測量杭又ハ測量標ニ妨害シタル者

◎囚人及刑事被告人押送取扱規程

明治三十一年三月
訓警第四七號

- 第一條 囚人及刑事被告人押送ハ明治三十年勅令第四百十五號囚人及刑事被告人押送規則及ヒ内務省令第三十七號同細則ニ據ルノ外尚ホ規程ニ從フヘシ
- 第二條 傳遞押送ハ其發出警察署又ハ分署ニ於テ送附スヘキ書類金品等ノ種目ヲ別紙雛形ノ遞附簿ニ記載送附シ該簿ニ領收ノ證印ヲ徵スヘシ
- 第三條 前條ノ送附ヲ受ケタル警察署又ハ分署ハ目錄ト書類金品トヲ照合シ領收ノ證印ヲナスヘシ
- 第四條 大阪市街警察署又ハ分署ニ於テ市街各官衙ニ囚人及刑事被告人ヲ押送スルトキハ檻車ヲ用ヒ一輛毎ニ被押送者四名以内ヲ乘載シ巡查一名尙ホ必要アル場合ハ細夫ヲ付シテ直送セシメ該檻車ノ開閉ハ必ス巡查之ヲ取扱フヘシ但水上警察署又ハ分署ハ輕罪ニシテ逃亡ノ虞ナキ者ニ限リ二名以内ハ便宜巡回船ヲ以テ押送スルコトヲ得

第五條

檻車ヲ用ヒサルトキハ被押送者人員一時三十名以内トシ五名ニ對シ巡查一名ヲ附シ尙ホ必要ト認ムル場合ハ細夫ヲ附スルコトヲ得但重罪又ハ逃走暴行劫奪セラルル虞アル者ハ押送巡查ヲ特選増員シ警戒ヲ嚴ニスヘシ

第六條

共犯者ニシテ途中通謀ノ虞アル者ハ各別ニ押送スヘシ

第七條

押送ハ迅速ニ之ヲナスヘシ一時ニ數人ヲ淹留シテ押送スヘカラス

第八條

汽車汽船ノ便アル地方間ニ在テハ傳遞ヲ經ス其目的地又ハ目的地最近ノ警察署分署又ハ各官衙ニ押送スヘシ(三十二年警訓第一四
六號ヲ以テ本條改正)

第九條

押送者ニハ手鎖ヲ施スヘシ檻車ヲ用ヒス押送スル場合ニシテ尙ホ逃走ノ虞アル者ハ腰繩ヲ附スルコトヲ得

第十條

被押送者ニシテ老幼虛弱者ニシテ歩行ニ堪ヘサル者ハ乗車セシムルコトヲ得

第十一條

傳遞ノ際ハ被押送者ノ身體竝ニ著服ヲ檢シ危險ノ虞アル物件ヲ隱匿セカ
ルヤ否ヤニ注意シ若シ之ヲ發見シタルトキハ直ニ取揚ケ其狀況報告書ヲ作り他ノ
携有セル物品ト共ニ送付ノ手續ヲ爲シ且ツ發送地ノ警察署又ハ分署ヘ其事由ヲ通
報スヘシ

第十二條

押送途中ハ左項ニ注意スヘシ

- 一 市街ハ成ルヘク衆人雜沓ノ地ヲ避ケ之レニ反シ谿谷山間等ハ本道ヲ選ミ間道
等逃走ヲ容易ニスヘキ地ヲ通行スヘカラス
- 二 橋梁渡船場河川谿谷等ヲ通過スルトキ若クハ街衢ヲ施回スルトキハ危害又ハ
逃走セサル様特ニ警戒スヘシ

◎囚人及刑事被告人押送取扱規程

下五七七

◎囚人及刑事被告人押送取扱規程

- 三 押送者ハ被押送者ノ左側ニ尾行スヘシ
- 四 戒具ハ異狀ナキヤ否ヤヲ時時點檢スヘシ
- 五 休息又ハ上厠セントスルトキハ其傍ニアリテ逸走セサル様警戒スヘシ
- 六 猥リニ物品等ヲ購求セシム可ラス
- 七 喫煙又ハ猥リニ休息ヲ許シ若クハ他人ト談話シ又ハ物品ノ贈與ヲ受ケシムヘカラス
- 八 押送者ハ必ス左手ヲ劍ノ腕貫ニ挿入スヘシ
- 九 被押送者ト同車スルトキハ右ニ乗セ押送者ハ左ニ乗車スヘシ
- 第十三條 瀛車瀛船ニ頼リ押送セントスルトキハ前條第四項以下各項ノ外尙ホ左項ニ注意スヘシ
 - 一 乗車セントスルトキハ其事由ヲ鐵道掛ニ告ケ公衆ノ乗車セサル前ニ乗車スルノ許諾ヲ請ヒ可成乗客ノ少ナキ場所ヲ選ムヘシ
 - 二 乗船セントスルトキハ其事由ヲ船長ニ告ケ可成乗客ノ雜沓セサル場所ヲ求ムヘシ
 - 三 昇降ノ際ハ特ニ注意シ船車内ニ於テハ中間ニ置キ押送者ハ左側ニ在テ窓戸口等ニ接近シ又ハ猥リニ運動セシム可ラス
 - 第十四條 押送途中ニ於テ異狀アルコトヲ認メタルトキハ傳遞シタル地ノ司法官警察官司獄官ニ其事由ヲ申告スヘシ
 - 第十五條 被押送者ニ關スル書類物件等ハ毀損散逸ノ虞ナキ様取扱ヒ且シ證據物件等原體ヲ保存シ要スルモノハ一層注意ヲ加フヘシ

第十六條 押送者ハ遞送スル時關係書類物件等ヲ紐付革囊ニ入ル右肩ヨリ左腋ニ斜擔スヘシ

第十七條 被押送者ノ所持スル貨幣ヲ押送者ニ託セス保管寄託替ヲ以テ發送スル場合ハ明治二十七年大藏省訓令第二號ニ依リ取扱フヘシ但分署ニ在ツテハ所屬警察署ニ現金ヲ送付シ本文ノ取扱ヲナスヘシ

附則

一 他府縣ニ送付スヘキ贓金品ニシテ運搬ニ不便ナルトキハ通運便等便宜ノ方法ヲ以テ送付スルコトヲ得

式樣簿付遞

| | | | | |
|-----------------------|-----------------------|--------|--------------------|---------|
| 發 午 後 時 分 | 著 午 後 時 分 | 録目品金類書 | 一 令狀何通 一 金何圓何拾錢 | 領收印 |
| | | 名者送押被 | 姓名氏發名 | 領收印 |
| 右送付候也 | | 明治年月日 | 宛 | 何警察(分)署 |

送付ヲ受ケタル所ノ印ヲ
蓋スヘキ者トス

◎囚人及刑事被告人押送取扱規程

◎留置場取締規則

明治二十四年二月
警達第五號

- 第一條 警察署ノ留置場ハ所屬外勤警部之レヲ主管シ巡查ヲシテ看守セシム
- 第二條 留置場ノ鎖鑰ハ外勤警部之レヲ領置シ其開閉ハ看守巡查ヲシテ掌ラシム
- 第三條 留置人及ヒ拘留人換刑人ハ留置人名簿及ハ拘留換刑執行簿ニ出入ヲ證ス可キ内勤警部ノ認印アルニ非ラサレバ總テ出入セシムルコトヲ得ス
- 第四條 新ニ入場スル者アルトキハ看守巡查ニ於テ兇器其他危險ノ虞アル物件ヲ携帶セサル様嚴密ニ検査シ其罪名住所氏名等留置人名簿ニ登記シ内外勤警部及ヒ引致巡查ノ認印ヲ受クヘシ但傳遞ニ係ル一時ノ留置人アルトキハ名簿被告人ノ欄ヘ傳遞ノ二字ヲ追加朱書シ外勤警部ノ認印ヲ受クヘシ
- 第五條 留置人名簿ニ登記スルト俱ニ兼テ備付ノ名札ニ其氏名ヲ記シ取調アル毎ニ其片隅ヘ朱點ヲ施シ以テ取調ノ有無ヲ檢スルノ便ニ供スヘシ
- 第六條 拘留ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ罰金科料ノ不納ニ依リ換刑セラレタル者アルトキハ即時掛書記ニ於テ其罪名住所氏名體相等ヲ拘留換刑執行簿ニ登記シ内勤警部ノ認印ヲ受ク看守巡查ニ引渡ス可シ而シテ看守巡查ハ外勤警部ノ認印ヲ受ク他ノ留置人ト區別シテ執行ス可シ
- 第七條 新ニ入場スル者特ニ注意ヲ要スルモノアルトキハ入場ノ際留置人名簿ニ其旨ヲ附記シ又留置人ニシテ三歳以上ノ子女ヲ携フルトキハ内勤警部ニ申告シ親屬故舊若シ之レナキトキハ郡市區長又ハ町村長ニ引渡ノ手續ヲ請求スヘシ
- 第八條 新ニ入場スル者ノ所持金品ハ看守巡查留置人ノ面前ニ於テ取調ヘ即時留置

- 人所持金品領置簿ニ登記シ留置人ニ署名捺印セシメ看守巡查認印ノ上内勤警部檢閱ノ上書記ニ交附スヘシ
- 第九條 留置人ニ對シ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙被服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フトキハ内勤警部之ヲ許否スヘシ
- 新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記シタル書類ハ許可セサルモノトス
- 第十條 前條差入ヲ許可シタルトキハ現品ヲ外勤警部ニ交附シ外勤警部ハ毒物其他危險ノ虞アル包藏物若クハ通牒ノ媒介トナルヘキヤ否ヲ精査スヘシ
- 第十一條 飲食物ノ差入ハ酒類煙草等ノ如キ贅澤物ヲ除キ消化シ易キ品ニシテ且警察署ニ於テ炊烹ヲ要セザルモノ一日三回一人一食ノ量ニ限ルヘシ但留置人私費ヲ以テ購求ヲ請フトキモ本文ノ規定ニ準ス
- 第十二條 傳染病若クハ其兆アルトキハ特ニ飲食物ノ差入又ハ購求ヲ許可セサルコトアルヘシ
- 第十三條 留置人ヨリ私費ヲ以テ發遣セントスルモノ及ヒ親屬故舊ヨリ來着シタル信書ハ内勤警部檢閱ノ上差支ナキモノニ限り認印ノ上發遣若クハ交附スヘシ
- 第十四條 留置人ニ接見セント請フモノアルトキハ其住所身分職業氏名及ヒ其緣由ヲ詳悉シテ差支ナク且必要アリト認メタル場合ニ限り之レヲ許可シ内勤警部立會ノ上接見所ニ於テ接見セシムルモノトス但別ニ接見所ノ設ケヲキトキハ取調所ヲ以テ充用ス
- 第十五條 前條接見ヲ許可シタルモノ若シ接見ヲ請ヒシ旨趣ト違フ談話ヲナスカ又ハ姿貌其他形狀等ヲ以テ相通スル形跡アリト認メタルトキハ立會警部ニ於テ直ニ

◎留置場取締規則

◎留置場取締規則

明治二十四年二月
警達第五號

- 第一條 警察署ノ留置場ハ所屬外勤警部之レヲ主管シ巡查ヲシテ看守セシム
- 第二條 留置場ノ鎖鑰ハ外勤警部之レヲ領置シ其開閉ハ看守巡查ヲシテ掌ラシム
- 第三條 留置人及ヒ拘留人換刑人ハ留置人名簿及ヒ拘留換刑執行簿ニ出入ヲ證ス可キ内勤警部ノ認印アルニ非ラサレバ總テ出入セシムルコトヲ得ス
- 第四條 新ニ入場スル者アルトキハ看守巡查ニ於テ兇器其他危險ノ虞アル物件ヲ携帶セサル様嚴密ニ検査シ其罪名住所氏名等留置人名簿ニ登記シ内外勤警部及ヒ引致巡查ノ認印ヲ受クヘシ但傳遞ニ係ル一時ノ留置人アルトキハ名簿被告人ノ欄ヘ傳遞ノ二字ヲ追加朱書シ外勤警部ノ認印ヲ受クヘシ
- 第五條 留置人名簿ニ登記スルト俱ニ兼テ備付ノ名札ニ其氏名ヲ記シ取調アル毎ニ其片隅ヘ朱點ヲ施シ以テ取調ノ有無ヲ檢スルノ便ニ供スヘシ
- 第六條 拘留ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ罰金科料ノ不納ニ依リ換刑セラレタル者アルトキハ即時掛書記ニ於テ其罪名住所氏名體相等ヲ拘留換刑執行簿ニ登記シ内勤警部ノ認印ヲ受ケ看守巡查ニ引渡ス可シ而シテ看守巡查ハ外勤警部ノ認印ヲ受ケ他ノ留置人ト區別シテ執行ス可シ
- 第七條 新ニ入場スル者特ニ注意ヲ要スルモノアルトキハ入場ノ際留置人名簿ニ其旨ヲ附記シ又留置人ニシテ三歳以上ノ子女ヲ携フルトキハ内勤警部ニ申告シ親屬故舊若シ之レナキトキハ郡市區長又ハ町村長ニ引渡ノ手續ヲ請求スヘシ
- 第八條 新ニ入場スル者ノ所持金品ハ看守巡查留置人ノ面前ニ於テ取調ヘ即時留置

- 人所持金品領置簿ニ登記シ留置人ニ署名捺印セシメ看守巡查認印ノ上内勤警部檢閱ノ上書記ニ交附スヘシ
- 第九條 留置人ニ對シ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙被服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フトキハ内勤警部之ヲ許否スヘシ
- 新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記シタル書類ハ許可セサルモノトス
- 第十條 前條差入ヲ許可シタルトキハ現品ヲ外勤警部ニ交附シ外勤警部ハ毒物其他危險ノ虞アル包藏物若クハ通牒ノ媒介トナルヘキヤ否ヲ精査スヘシ
- 第十一條 飲食物ノ差入ハ酒類煙草等ノ如キ贅澤物ヲ除キ消化シ易キ品ニシテ且警察署ニ於テ炊煮ヲ要セザルモノ一日三回一人一食ノ量ニ限ルヘシ但留置人私費ヲ以テ購求ヲ請フトキモ本文ノ規定ニ準ス
- 第十二條 傳染病若クハ其兆アルトキハ特ニ飲食物ノ差入又ハ購求ヲ許可セサルコトアルヘシ
- 第十三條 留置人ヨリ私費ヲ以テ發遣セントスルモノ及ヒ親屬故舊ヨリ來着シタル信書ハ内勤警部檢閱ノ上差支ナキモノニ限り認印ノ上發遣若クハ交附スヘシ
- 第十四條 留置人ニ接見セント請フモノアルトキハ其住所身分職業氏名及ヒ其緣由ヲ詳悉シテ差支ナク且必要アリト認メタル場合ニ限り之レヲ許可シ内勤警部立會ノ上接見所ニ於テ接見セシムルモノトス但別ニ接見所ノ設ケナキトキハ取調所ヲ以テ充用ス
- 第十五條 前條接見ヲ許可シタルモノ若シ接見ヲ請ヒシ旨趣ト違フ談話ヲナスカ又ハ姿貌其他形狀等ヲ以テ相通スル形跡アリト認メタルトキハ立會警部ニ於テ直ニ

◎留置場取締規則

- 停止ス可シ
- 第十六條 接見ヲ許可スヘキ時限ハ午前八時ヨリ午後四時迄トシ其接見ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス
- 第十七條 檢事又ハ豫審判事ヨリ一時預リタル留置人ハ當該官吏ノ檢閱若クハ許可アルニアラザレハ信書ノ發受又ハ接見セシムルヲ得ス
- 第十八條 留置場ニハ刑法及ヒ刑事訴訟法ヲ備置キ留置人ノ請求ニ依リ貸讀セシムルコトアル可シ
- 第十九條 水火風震等ノ變災ニ遭遇スルトキハ内外勤警部ハ臨機避難ノ處置ヲナス可シ
- 第二十條 留置場ハ常ニ清掃シ不潔ナラシメサルヲ要ス留置場用ノ廁圍竝ニ便器ハ一日一回以上掃除シ時時防臭藥ヲ散布ス可シ
- 第二十一條 寢具其他ノ物品ハ時時日光又ハ大氣ニ晒シ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス
- 第二十二條 留置人浴湯ノ定度ハ六月ヨリ九月迄ハ五日毎ニ一次以上十月ヨリ五月迄ハ十日毎ニ一次以上トス
- 第二十三條 留置人ノ糧食ハ喫食前必ス外勤警部ニ於テ腐敗等ノ恐レナキヤ否ヲ檢査スヘシ
- 第二十四條 看守巡查ニ於テ留置人出入取扱及ヒ房內動靜ノ視察要件概テ左ノ如シ
 - 一 留置人ヲ留置場外ニ出スルハ腰繩ヲ施シ細夫ニ堅持セシメ後ヨリ護衛スヘシ
 - 二 留置人ヲ取調所ニ出シタルトキハ必ス身體ノ拘束ヲ解キ總テ内勤警部ノ指揮

- ニ從ヒ護衛スヘシ
- 三 夜間使用ノ爲メ留置人ヲ房外ニ出スハ午後十時ヲ限リトス但疾病等止ムヲ得サル場合ハ此限ニアラス
- 四 特ニ注意ヲ要スヘキ告示ヲ受ケタルトキハ留置人名簿若クハ名札ニ標點ヲ付シ其舉動ニ注意スヘシ
- 五 留置人ノ内共犯者及男女ハ其區別ヲ嚴割シ談話通聲セサルヲ要ス
- 六 留置場内ニ於テハ疾病其他ノ事故アルニアルケレハ晝間猥リニ横臥セシム可ラス
- 七 警察官外ノ者ヨリ故ナク留置人ヲ受取ルヘカラス
- 八 留置場内ニハ警部巡查細夫留置人ノ外猥リニ出入セシムヘカラス
- 九 總テ差入物ハ許可ノ證アルモノノ外入ルルヲ得ス
- 第二十五條 留置場ニハ留置人賄簿ヲ備置留置人ノ喫食度數ハ遺漏ナク登記シ毎朝外勤警部ノ認印ヲ受クヘシ
- 第二十六條 留置人ノ請願又ハ疾病ニ罹ルモノアルキハ其旨内勤警部ヘ申告ス可シ
- 第二十七條 看守巡查ハ當用ノ外房内ノ者ト談話スルヲ得ス
- 第二十八條 看守巡查交代ノ節ハ留置人ノ員數ヲ其人名簿ト照合點檢シ然ル後受渡ヲナス可シ但特ニ注意ヲ要スルモノハ必ス其旨申繼クヘシ
- 第二十九條 看守巡查ハ前條ノ外留置人ニ關スル一切ノ事ハ總テ内外勤警部ノ指揮ヲ受ク可シ
- 第三十條 細夫ハ看守巡查ノ指揮ヲ受ケ職務ニ從事スルモノトス

(二十七年警達第二十七號ヲ以テ改正様式)

| | | | | | |
|----|-------------------------------|----|---------------|----|---------------|
| 顔色 | 黒シ | 耳 | 小ナル方 | 肥瘠 | 瘠マル方 |
| 眼 | 玉茶色ニシテ大ナル方 | 頭髮 | 散髪ニシテ白髪交リ薄シ | 別徴 | 左ノ腕ニ何何アリ |
| 鼻 | 高シ | 髭 | 髭髯白髪交リ發生凡何寸何分 | 宗門 | 何何宗 |
| 口 | 竝 | 痘痕 | 少少アリ | 乳兒 | 長次男(女)何某何年何个月 |
| 教育 | 姓名ヲ記ス(能ハス)讀書ス(能ハス) | 提携 | | | |
| 親族 | 父母兄弟姉妹配偶者子孫氏名 | | | | |
| 備考 | 年月日親屬(故舊)某罰金(科料)何圓何十錢代納ニ依リ放免ス | | | | |

◎違警罪即決事務取扱手續

明治三十五年四月十七日 訓保第百三十九號

警察署長、警察分署長

第二條 警察署長又ハ分署長ハ其ノ署ノ警部又ハ巡查部長ヲシテ其ノ管轄内ニ於テ犯シタル違警罪ノ代理即決セシムルコトヲ得但シ巡查部長ヲシテ代理即決セシムルコトヲ得ルハ警部不在ノトキニ限ルヘシ

第一條 告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ其ノ書類ノ欄外餘白ニ於テ即決言渡ノ原本ヲ作ルヘシ(三十六年二月訓保第一) (四號ヲ以テ本條改正)

第三條 複雑ナル事件ニ付テハ被告人及關係人ノ取調書ヲ作ルヘシ
第四條 言渡確定ノ後被告人呼出ニ應セサルトキハ拘留刑ニ付テハ言渡書科料刑ニ付テハ換刑命令書ヲ被告人ニ示シ其ノ刑ヲ執行スル爲之ヲ警察官署ニ引致スルコトヲ得

第五條 被告人管轄地外ニ在ルトキハ所在地ノ警察官署ニ其ノ刑ノ執行ヲ囑托スルコトヲ得

第六條 言渡書ノ正本ハ違警罪即決言渡原本ニ依リ之ヲ作ルヘシ(三十六年二月訓保第一)
第七條 言渡書ノ送達ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ正本ノ交付ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
第八條 送達ハ署員其他ノ者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ但シ便宜郵便ニ付スルコトヲ得

前項ノ送達ハ言渡書送達簿ニ依リ之ヲ爲シ其ノ郵便ニ付スル場合ハ發送ノ年月日ノミヲ記入スヘシ

第九條 送達ヲ受クヘキ人ニ住居ニ於テ出會ハサルトキハ成長シタル同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲スヘシ

第十條 正當ノ理由ナクシテ受取ヲ拒ムトキハ交付スヘキ書類ヲ送達ノ場所ニ差置キ其ノ旨言渡書送達簿ニ記載スヘシ

第十一條 正式裁判ノ請求書ハ管轄區裁判所宛ニテ差出サシムヘシ
第十二條 前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ一件書類ニ目錄ヲ附シ速ニ管轄區裁判所檢事ニ送達スヘシ

第十三條 警察署又ハ分署ニ於テハ前數條ニ記載シタル帳簿ノ外別ニ違警罪ニ關スル書類ノ編冊ヲ備フヘシ

◎違警罪即決事務取扱手續

○違警罪即決事務取扱手帳

(告發書及言渡原本書式)

(三十二年二月訓保第一四)
號ヲ以テ本書式ヲ改正ス

番號ハ受付順ニ之ヲ付シ
又用紙ハ美濃紙ヲ用ユヘシ

下五八八

第何號 署長印

言渡書

本件違警罪被告事件
被告人ノ陳述ヲ聽キ
(聽カス) 審按スルニ
被告人ノ所爲ハ何規
則第何條ニ該當スル
ヲ以テ對(缺)席ニテ
被告ヲ.....ニ
處ス

署
年月日
印

大阪府何警察署長
又ハ分署長(代理)

官 氏 名

處分ノ結末

年月日 完納(執行) 年月日 何署ニ科料ノ徵收方ヲ囑托ス
年月日 何署ヨリ完納ノ通知アリタリ何々(其ノ事件ノ結末)

| | | | | | | | |
|----------------|-----|---------|-------|-------|---------|---------|-------------------------|
| 被告ノ姓名、身分、年齢、職業 | 住 所 | 犯罪ノ年月日時 | 犯罪ノ場所 | 犯 罪 状 | 違 犯 條 項 | 引致告發ノ理由 | 右 告 發 ス |
| | | | | | | | 大阪府何警察署又ハ分署 巡 査 印 |

(言渡書々式)

(三十二年二月訓保第一四)
號ヲ以テ本書式ニ改正ス

第何號

言渡書
(本言渡書ハ被告人ニ送達スル等必要アル場合ニ於テ作製スルモノトス)

住所身分職業 氏 名

年 齡

右違警罪被告事件被告人ノ陳述ヲ聽キ(聽カス)審按スルニ被告ハ年月日何所ニ於テ何々シタルモノト認ム依テ何規則第何條ニ依リ對席(缺席)ニテ被告ヲ.....ニ處ス

但シ此言渡ニ對シテハ三日(五日)内ニ正式ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得
右言渡確定ノ後法定ノ期間内ニ科料ヲ完納セサルハ何日ノ拘留ニ換フトヲ命ス

大阪府警察署長又ハ分署長(代理)

官 氏 名 印

(送致目錄書式)

送 致 目 録

- 一 正式裁判請求書
- 一 巡査告發書
- 一 取調書
- 一 言渡書

○違警罪即決事務取扱手帳

通 通 通 通

下五八九

明治三十六年五月二十三日出版
同年五月二十六日發行

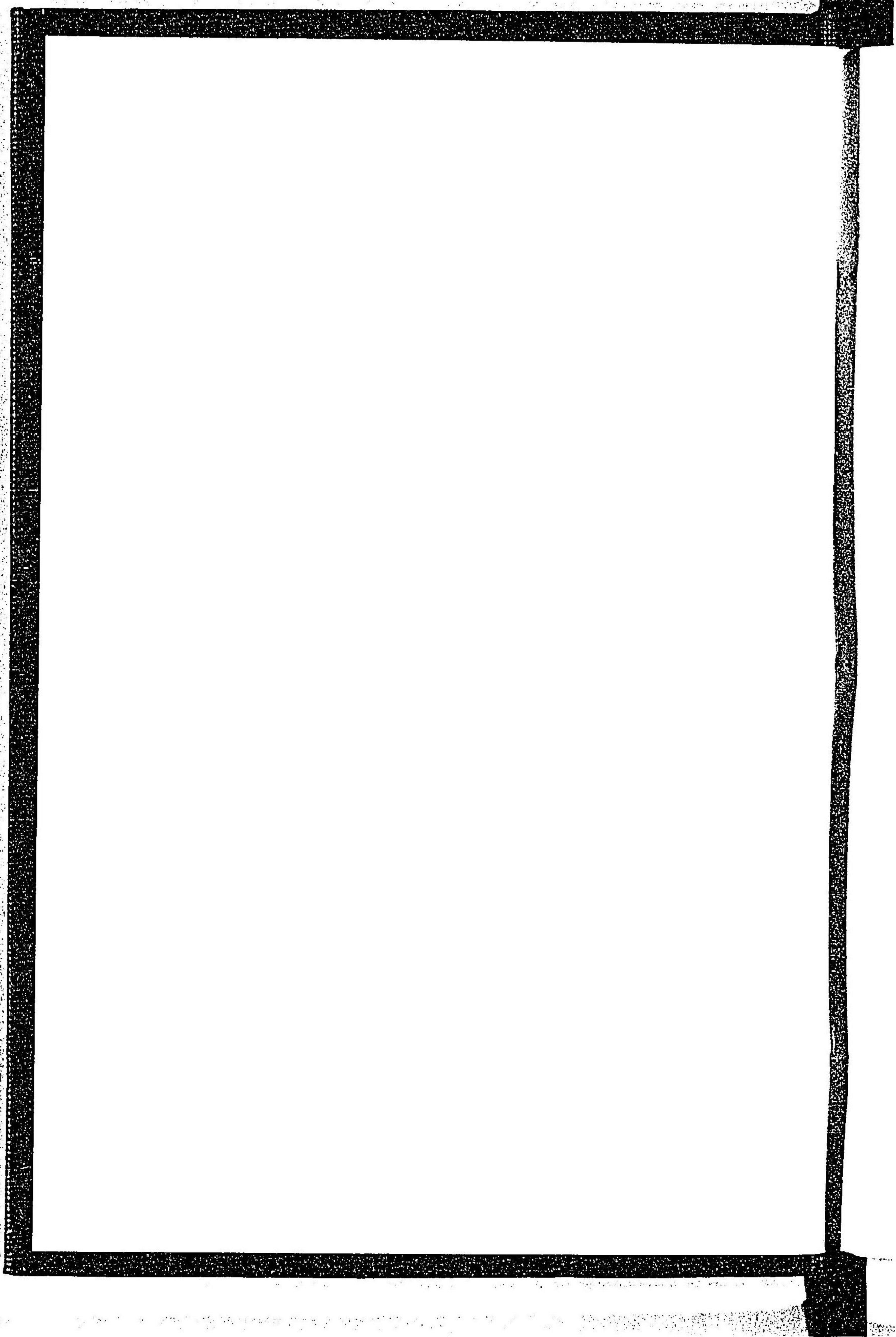
大坂市西區西九條上ノ町百三番地
發行兼編輯人 木原大治郎

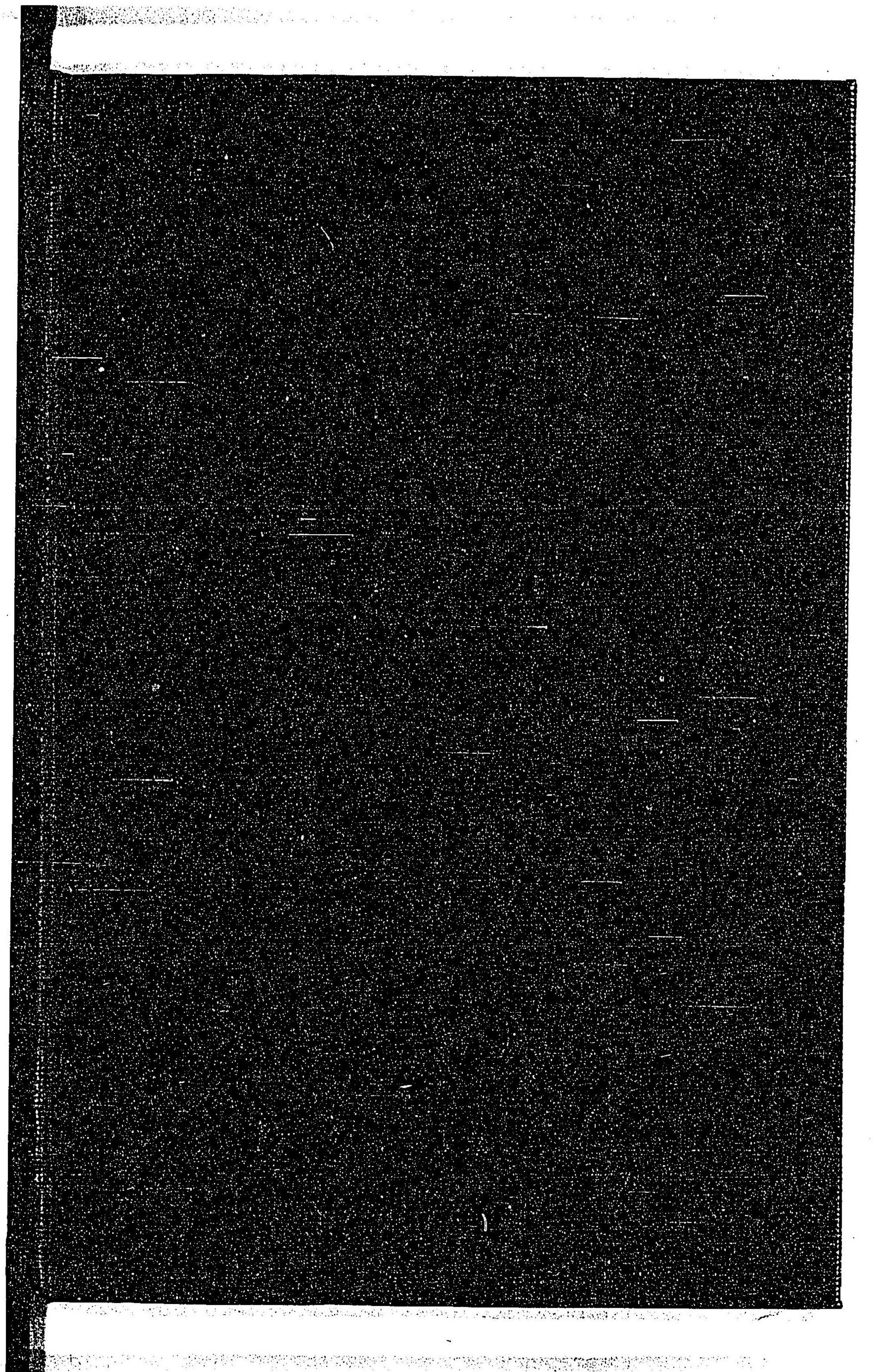
大坂市西區土佐堀通四丁目十二番屋敷
印刷人 正永良熙

大坂市西區土佐堀通四丁目十二番屋敷
發行所 合名 三有社

印刷所 大坂市西區土佐堀通四丁目十二番屋敷
合名三有社印刷部

4472A-101





禁電子式複写

033474-000-8

CZ-1351-73-03

執行警察要覽

木原 大治郎/編

M36

BBK-0270

